

平成22年度

福岡市の教育施策

～ 福岡のすべての子どもが身につけてほしい大事なこと ～

福岡スタンダード「あいさつ・掃除 自学 立志」



福岡市教育委員会

福岡スタンダードの推進キャラクターと標語

【 キャラクター部門 】

スタンバード



【 標語部門 】

- 《 あいさつ標語 》  あいさつで 伝わる心と その笑顔
- 《 掃除標語 》  おそうじで ぼくのこころも ピッカピカ
- 《 自学標語 》  学ぶほど 見える世界は 広くなる
- 《 立志標語 》  目標は 自分の夢への 第一歩

教育委員会は、福岡スタンダードを推進するため、福岡市内の小中学生から「キャラクター」と「標語」を募集しました。

キャラクターは、729点の作品の中から、標語は9,517点の作品の中から選考の結果、最優秀作品として選ばれたものです。

目次

I	平成22年度教育委員会運営方針	・・・	P 1
II	重要施策		
1.	たくましく生きる子どもの育成	・・・	P 3
	ア 確かな学力の向上		
	イ 豊かな心、健やかな体の育成		
	ウ 福岡の特性を生かした教育の推進		
	エ 市立高等学校の活性化		
	オ 不登校の子どもへの支援等の充実		
	カ 特別支援教育の推進		
2.	信頼される学校づくりの推進	・・・	P 11
3.	信頼に答え得る教員の養成	・・・	P 12
4.	社会全体での子どもたちの育成	・・・	P 13
	ア 子どもの安全確保に向けた取組の推進		
	イ 家庭・地域における教育の支援		
5.	教育環境づくりの推進	・・・	P 16
	ア 安心して学ぶことができる教育環境の整備		
	イ 教員が子どもと向き合う環境づくり		
6.	人権教育の推進	・・・	P 18
7.	図書館・美術館・博物館事業の充実	・・・	P 19
8.	文化財の保存・活用	・・・	P 20
III	教育委員会予算	・・・	P 21
IV	教育委員会組織図	・・・	P 22

平成22年度 教育委員会運営方針



教育委員会目標

基本的な生活習慣を身につけ、自ら学ぶ意欲と志を持ち、心豊かにたくましく生きる子ども(めざす子ども像)をはぐくむとともに、全ての市民が輝き活気あふれる社会や文化を創造する。

《平成22年度運営方針》

「新しいふくおかの教育計画」の着実な推進により学校の教育力向上を図るとともに、美術館等を魅力あるミュージアムとするためのあり方検討や、貴重な歴史・文化遺産の保存活用を行う。

《 予 算 》

子ども達の学力向上に向けた取組や、不登校ひきこもり対策、良好な教育環境の充実などへ重点的に予算配分を行い、学校の教育力向上を目指すとともに、ミュージアムの魅力向上のための検討や、福岡城跡・鴻臚館跡の保存活用など長期的な視野に立った効果的な教育投資を行う。

《 組 織 》

教育委員会事務局の簡素で効率的な運営を進めつつ、目標実現に向け、機能的で柔軟な、活力ある組織の構築を図る。

平成22年度重要施策の柱

《 学校教育 》 社会全体で子どもを育む「共育」を推進するとともに、本市の目指す子ども像の実現に向け、教育計画を着実に推進する。

1. たくましく生きる子どもの育成

- ア 確かな学力の向上
- イ 豊かな心、健やかな体の育成
- ウ 福岡の特性を生かした教育の推進
- エ 市立高等学校の活性
- オ 不登校の子どもへの支援等の充実
- カ 特別支援教育の推進

2. 信頼される学校づくりの推進

3. 信頼に応え得る教員の養成

「公教育の福岡モデル」

重視する
教育の内容

福岡スタンダード
ことばを大切にする教育
子どもの力を引き出し発揮させる教育

重視する
教育の方法

小中連携教育
家庭・地域・企業等と連携した教育活動

4. 社会全体での子どもたちの育成

- ア 子どもの安全確保に向けた取組の推進
- イ 家庭・地域における教育の支援

5. 教育環境づくりの推進

- ア 安心して学ぶことができる教育環境の整備
- イ 教員が子どもと向き合う環境づくり

6. 人権教育の推進

《 文化・芸術 》 市民が優れた芸術文化に触れることができる環境整備に取り組むとともに、郷土福岡の歴史・伝統・文化の保存と活用を図る。

7. 図書館・美術館・博物館事業の充実

8. 文化財の保存・活用

重要施策

1. たくましく生きる子どもの育成

【取組の方向：教育の連携と充実】

子どもたちは、一人ひとりがこれからの社会を支え創造する大切な存在です。子どもたちが社会を支える市民となるために、あいさつ、掃除にはじまる基本的生活習慣や、基礎・基本の学力、コミュニケーション能力、規範意識、そして物事に元気に取り組むことが出来る意欲や体力を、発達段階に応じてしっかり育んでいきます。

ア	確かな学力の向上〔723,393千円〕	P 4
イ	豊かな心、健やかな体の育成〔47,544千円〕	P 5
ウ	福岡の特性を生かした教育の推進〔32,987千円〕	P 7
エ	市立高等学校の活性化〔15,907千円〕	P 8
オ	不登校の子どもへの支援等の充実〔379,756千円〕	P 9
カ	特別支援教育の推進〔196,596千円〕	P 10

福岡スタンダードの推進



小中学校9年間を見通した指導のねらいと体制

区分	前期(小1～小4)	接続期(小5～中1)	後期(中2～中3)
ねらい	基本的生活習慣の定着	学習意欲を高め、粘り強く学習する態度の確立	進路について目標を持ち、社会の中で自分を生かそうとする態度の育成
指導体制	学級担任制	一部教科担任制	教科担任制
	少人数学級	少人数指導	少人数学級(選択制)

ア 確かな学力の向上



【今後の方向性】

全国学力・学習状況調査で把握した課題を基に、小中学校共通の学力向上プランを選択し、言葉の力や考える力の育成、基礎・基本の定着を図るとともに、学習規律を発達段階に応じて育成します。

また、家庭での学習習慣が定着する取組を行います。

《平成22年度の主な取組》

【予算】 723,393千円

◆少人数学級を小学校4年生まで拡大

個に応じたきめ細かな指導をするため、35人以下の少人数学級を小学校4年生まで拡大

(実績) H17:小1, H18:小2まで, H19:小3まで実施

◆一部教科担任制を小学校5・6年生で本格実施

児童の興味関心に応える学習の提供や学習上のつまずきの克服など確かな学力の向上に向け、一部教科担任制を本格実施

(実績) H20から、小4～6年生を対象に28校でモデル実施

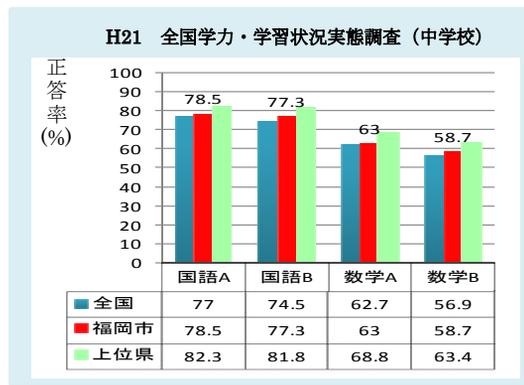
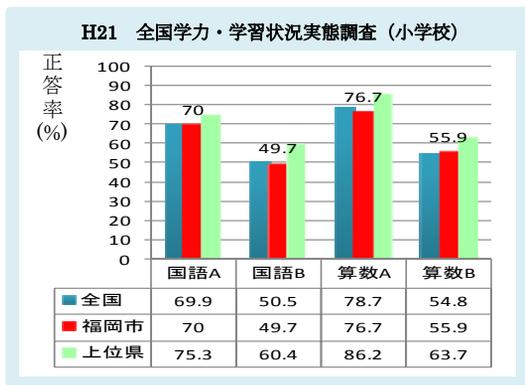
◆中学校外国語教育の充実

生きた語学教育と国際理解教育を推進するため、外国語指導助手の学校訪問回数を充実

◆学力パワーアップ総合推進事業【継続】

《これまでの成果》

- 少人数学級は学力向上、基本的な生活習慣・学習規律の定着等に効果が認められる。
- 一部教科担任制は学力向上等の効果が認められ、特に小学校5・6年生で効果大。
- H21全国学力・学習状況調査で小中8分類中6分類が全国平均を上回った。



イ 豊かな心、健やかな体の育成

【今後の方向性】

道徳教育の一層の充実を図り、相手の思いを受け止め、互いが生かされる関係をつくるコミュニケーション能力を高めるとともに、社会体験や自然体験など、さまざまな体験を通して価値判断の基準や感性・情操、思いやりの心などを育てます。

また、新体力テストを実施することで児童生徒の体力の実態を把握し、体力向上の取組や運動部活動の充実を図ります。

≪平成22年度の主な取組≫

【予算】 47,544千円

◆「ことば響く街ふくおか」推進事業

豊かな人間関係の形成や国語力の充実を図るために児童生徒向けの「音読・朗読ハンドブック」と教員用「言語活動指導の手引き」を作成・配付し言語活動の指導を充実



◆学校司書の配置【継続】

小中学校の学校図書館の環境整備、読書指導など児童生徒の読書活動の活性化のため、学校司書を30名配置

(実績) H20：小学校30校，H21：小中学校60校に配置

◆おっしょい!元気ツズパワーアッププラン【継続】

体力向上推進モデル校を中心に市内各小中学校において児童生徒の体力向上に向けた取組を推進

(実績) H20：新体力テスト集計ソフト開発
H21：「体力向上マニュアル」を作成



≪上記以外のこれまでの主な取組≫

■豊かな心の育成

「心のノート」配付，読書活動推進，非行防止学習の実施，自然教室の実施，メディアリテラシーの育成(H20年に「インターネットの有害情報への対応」DVD配付)

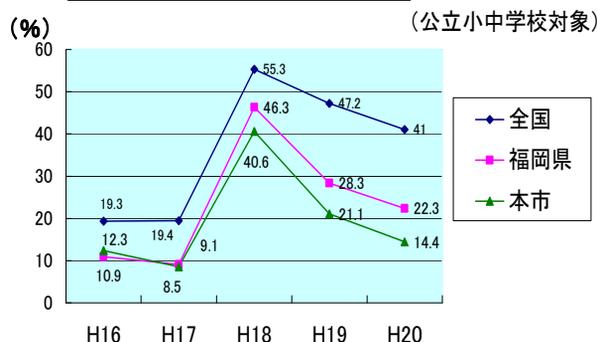
■PEN樹脂食器の導入

アルマイト製食器を使用した小学校の食器を食育上の観点から平成21年度にPEN樹脂食器へ変更 (PEN樹脂食器とはポリエチレンナフタレート (POLYETHYLENE NAPHTHALATE) の略)

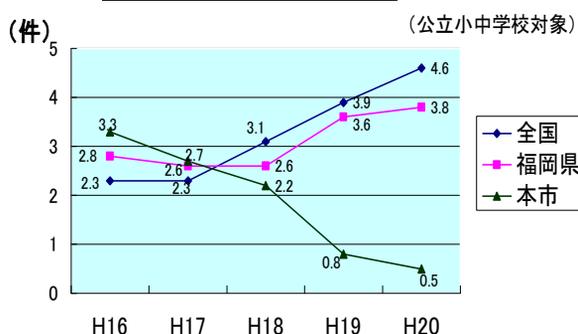
《これまでの成果》

- 暴力行為の件数は全国では増加傾向にある中、本市の小中学校では減少した。また、平成18年度のいじめによる自殺事件を機に、学校での規範意識教育の充実および学校と警察との連携強化により、いじめ発生件数が減少した。

いじめの発生率の推移(%)
(いじめが発生した学校の割合)



暴力行為の発生件数の推移
(1000人あたりの発生件数)



- 学校司書については、平成21年度に配置した中学校30校では、次のような項目で顕著な伸びを示している。

○読み上げ冊数/月	H20 : 1.2冊	⇒	H21 : 2.8冊
○開館日数/月	H20 : 6.6日	⇒	H21 : 15.9日
○授業での図書館利用時数/月	H20 : 8.9日	⇒	H21 : 17.7日



- PEN樹脂食器を試験導入した学校から「食事が温かくておいしい」「金属音がなくてよい」等の歓迎する意見が寄せられている。

ウ 福岡の特性を生かした教育の推進

【今後の方向性】

福岡市が持つ自然や歴史、文化的・社会的資源を最大限に活用し、学校教育の内容と方法に広がりや深まりを持たせます。

《平成22年度の主な取組》

【予算】 32,987千円

◆福岡・釜山教育交流事業(副読本を小学校6年生用として各小学校へ配付)

(実績) H21 釜山広域市教育庁と教育交流に関する覚書を締結
小学生向け副読本「もっと知りたい福岡・釜山」作成



(左) 日本語版
(右) 韓国語版

◆特色ある教育の推進【継続】

地域に愛着と誇りを持ち地域の中で健やかに育つ児童生徒を育成するために、地域人材や社会施設等の活用など地域と連携した特色ある教育活動を推進し、学校教育の一層の活性化を促進

◆「学生サポーター」制度活用【継続】

学習指導・学校行事補助、部活動補助、障がいのある子を支援するため、協定を結んだ大学から学校に「学生サポーター」を派遣（協力大学は18校）

◆職場体験学習事業【継続】

勤労観・職業観の育成を図るため、全中学校で2年生を中心に、学校や地域の実態に応じて3日間程度の職場体験学習を実施

◆埋蔵文化財センター出前授業【継続】

小・中学校・特別支援学校において、市内遺跡からの出土品を活用するなど、歴史や文化を生かした教育を推進

エ 市立高等学校の活性化

【今後の方向性】

進学や就職など生徒の多様な進路希望に応える教育内容を提供し、生徒の進路実現を支援するとともに、中学生や市民から必要とされる魅力ある高校づくりを推進します。

《平成22年度 of 主な取組》

【予算】 15,907千円

◆進路実現プロジェクト【継続】

社会人講師の招致や進路指導員の配置，教員の授業力向上のための研修の実施や，民間教育機関が主催するセミナーへの教員派遣など生徒の進路実現に向けた取組の推進

(実績) H21：進路指導員を1名配置



◆高等学校キャリア教育支援事業【継続】

生徒の勤労観・職業観を育成するため，福翔高校でのジュニア・アチーブメント・プログラム（模擬企業経営演習）の実施や，進路講演会を開催するなど市立高校におけるキャリア教育を推進

◆魅力ある高校づくり推進【継続】

各学校の特色を生かした魅力ある市立高校づくりを推進するとともに，学科改編など市立高校の改革に向けた検討を実施



【福岡市立福岡西陵高校管弦楽部】
(於) 福岡アクロスシンフォニーホール

オ 不登校の子どもへの支援等の充実

【今後の方向性】

「中1ギャップ」への的確な対応を図るために、中学校1年生における少人数学級の実施や不登校対応教員の配置を進めるとともに、小中連携や家庭、関係機関との連携を図るなど、不登校生徒への支援の充実に取り組みます。

《平成22年度の主な取組》

【予算】 379,756千円

◆不登校対応教員を3名増員

不登校生徒に対する適切な指導・支援を専任的に取り組む不登校対応教員を3名増員し、中学校に23名配置

◆スクールソーシャルワーカーを2名増員

中学校区を活動範囲とするスクールソーシャルワーカーを2名増員し、小学校6校に配置

(実績) H20：小学校に2名配置，H21：小学校に4名配置

◆スクールカウンセラー，心の相談員の継続配置【継続】

スクールカウンセラーを中学校67校，高校4校に配置
未配置中学校2校（小呂中，玄界中）に心の教室相談員を配置

◆中学校1年に少人数学級実施【継続】

確かな学力の向上，中1ギャップへの対応，不登校生徒への対応などを図るため，中学校1年生で学校選択制による少人数学級を実施

《これまでの成果》

■平成20年度に「不登校ひきこもり対策支援会議」を設置。同会議の提言を受け，平成21年度からさまざまな取組を行い不登校生徒数が減少している。

不登校生徒数の減少！



H21. 2月末 1,298人
H22. 2月末 1,132人 **△166人**

カ 特別支援教育の推進

【今後の方向性】

「障がい等のある児童生徒の自立と社会参加」を一層促進するために、校内支援体制を整備するとともに、特別支援学校における教員の専門性の向上とセンター機能の充実を行います。

《平成22年度の主な取組》

【予算】 196,596千円

◆特別支援教育支援員を15名増員

幼・小・中・高等学校に在籍するLD（学習障がい）やADHD（注意欠陥多動性障がい）等、障がいのある児童生徒の支援体制を充実するために特別支援教育支援員を15名増員し、75名配置

（実績）H20：37名，H21：60名を配置

◆博多高等学園移転整備【新規】

平成25年4月の博多区大浜小跡地への移転開校に向けた基本・実施設計

◆特別支援教育推進プラン策定【新規】

平成15年度に策定した「福岡市障がい児教育プラン」の総括を行い、今後の特別支援教育の方向を示す「特別支援教育推進プラン」を策定

《上記以外のこれまでの主な取組》

■特別支援学級及び通級指導教室の整備

（H21までの整備状況）

- ・知的障がい 小学校 83校，中学校 44校
- ・情緒障がい 小学校 5校，中学校 3校
- ・肢体不自由 小学校 3校，中学校 2校

■交流及び共同学習の充実（副籍制度の試行）

特別支援学校に入学する児童生徒を対象に、居住する地域の小・中学校に副籍を置き、交流及び共同学習（居住地校交流）をさらに推進

《これまでの成果》

- 支援員の配置により学習面・生活面が改善し、学習への集中度や参加意欲が向上した。
- 特別支援学級の新設により、居住する地域の近隣の学校で児童生徒の心身の発達状況に応じた指導を行うことができた。

2. 信頼される学校づくりの推進

【取組の方向：組織体制の充実と魅力ある学校づくり】

校長を中心とした組織的・協働的な学校経営を推進し、学校の組織力の強化に取り組むとともに、地域と連携し、開かれた信頼される学校づくりを進めます。

《平成22年度の主な取組》

【予算】 17,100千円

◆副校長，主幹教諭等の新たな職の設置等

平成20年度から新たな職を設置し、平成22年度は小・中・特別支援学校に101名（副校長4名，主幹教諭88名，指導教諭9名）配置

◆学校公開週間の推進【継続】

毎年11月1日～7日に市立学校・園を地域住民等へ公開

◆学校のホームページの充実【継続】

開かれた学校づくりを推進するため、「学校経営方針」「本年度の目標・重点」「学校評価」等を学校のホームページに掲載するなど広報の充実

《 福岡スタンダードを推進するために横断幕をつくり、
市内すべての市立学校・園で掲示しています。 》

みんなで取り組もう！

あいさつ・掃除 自学 立志

～福岡のすべての子どもが身につけてほしい大事なこと～

福岡市教育委員会



3. 信頼に応え得る教員の養成

【取組の方向：教員の資質や指導力の向上】

確かな力量と豊かな人間性を備え、使命感を持って子どもたちを導くことができる教員の確保と指導力の向上を進めます。

《平成22年度の主な取組》

【予算】 94,501千円

◆優れた資質のある人材の確保【継続】

今後の教員の大量退職に対応するため、採用試験の工夫・改善や、受験者確保の取組を進め、優れた資質のある人材を確保

(実績) 平成21年度 高等学校に民間出身の教頭を2名採用

◆教員研修の充実, 及び調査研究の支援

全教員の指導力向上のための研修, 経験や課題等に
応じた研修講座実施



各学校での取組の様子



(学校でのあいさつの様子)



4. 社会全体での子どもたちの育成

【取組の方向：家庭教育支援と就学前教育の展開，
地域・企業等における子育て支援の推進】

学校，家庭，地域・企業等が連携し協力しあいながら子どもたちを育てていく取組を進めます。



ア 子どもの安全確保に向けた取組の推進

《平成22年度の主な取組》

【予算】 7,177千円

◆メディアリテラシーの育成【継続】

インターネット・携帯電話を介した有害情報から児童生徒を守るため，全小中学校で児童生徒への指導や保護者への啓発に取り組む

(実績) H20：児童生徒用リーフレット，保護者用DVD，教員用指導資料集を作成

◆地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業【継続】

学校内外において子どもの安全を見守るスクールガード(学校安全ボランティア)を養成し，地域ぐるみで学校の安全に関する取組を推進

◆小学校1年生への防犯ブザーの配付【継続】

登下校の安全確保などを図るため，小学校の児童に防犯ブザーを配付

(実績) H19までに全児童に配付，H20以降は小学校新1年生に配付

◆携帯メール配信システム【継続】

不審者情報などの諸連絡を学校からメールで配信するシステムの活用

(実績) H21年度末導入状況

・小学校	109校／146校
・中学校	23校／69校
・特別支援学校	1校／8校

《これまでの成果》

■学校に情報モラルに関する相談が保護者から寄せられるなど関心が高まった。

■平成21年度末時点で，小学校146校のうち140校がスクールガードの取組を実施するなど学校と保護者，地域が連携して，地域社会全体で学校安全に取り組む体制づくりが進んでいる。

イ 家庭・地域における教育の支援

《平成22年度の主な取組》

【予算】 23,471千円

◆子どもとメディアのよい関係づくり事業【継続】

子どものメディア接触の実態と心身の発達との関係を明らかにし、子どものメディア漬けから脱却し、メディアを主体的に活用できるプログラムを開発

◆PTAと連携した家庭教育支援事業【継続】

小学校入学説明会時学習会やPTA研修事業などPTAと連携した家庭教育支援事業を実施

◆学校支援地域連携事業【継続】

学校と地域の連携を図り、地域の人材を活用するなど地域全体で学校教育を支援する仕組みづくりを進め、教員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保するとともに、地域の教育力向上を推進(モデル校10校)

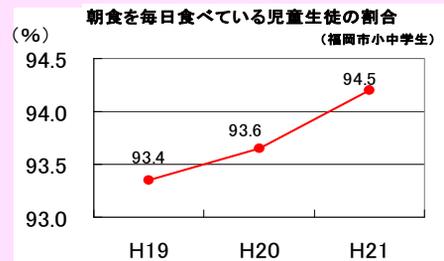


早寝・早起き・朝ごはん

《これまでの成果》

- 家庭教育を家庭のみの問題として捉えず、地域や学校を含め社会全体で家庭教育を支援した結果、生活リズムが向上するなど基本的な生活習慣の確立に効果があった。

朝食をきちんと食べている子どもが増えています！



(全国学力・学習状況調査より)



【家庭学習と基本的な生活習慣の定着のためのパンフレットを学校を通じて各ご家庭に配付しています】



【子どもたちは地域の方にも見守られています】

ふいかえろう 毎日の子育て!



福岡市 家庭教育 10か条



福岡市PTA協議会と教育委員会が協力して作成

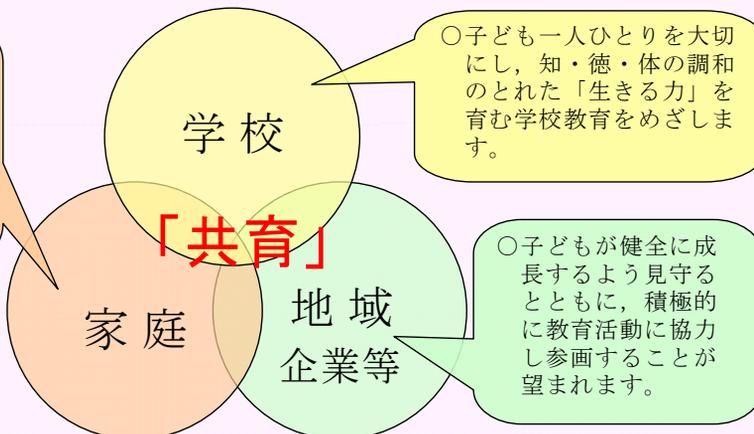
- 一、子育ては 誉めて 叱って 見守って
- 一、聴きましょう 子どもの話を最後まで
- 一、「ありがとう」「ごめんなさい」 素直な気持ちを大切に
- 一、基本です「早寝・早起き・朝ごはん」
- 一、明るく元気に笑顔の「おはよう」
- 一、ふれあおう 親子で スポーツ 外遊び
- 一、いっしょに読もう「子どもと本の日」
- 一、話しあおう ケータイの必要性 決めよう 使用のマナーとルール
- 一、声かけて 習慣づけよう 家庭学習
- 一、すすんでやろう 整理整頓

家庭，地域・企業等のみなさまへ～「共育」へ向けて～

子どもたちは学校だけでなく、家庭や地域の中で様々な体験をしたり様々な人々と関わったりしながら学び、成長していきます。

そこで、学校、家庭、地域・企業等それぞれが教育の主体（担い手）としての責任を持つとともに、社会全体で共に教育に取り組む「共育」が必要です。

○子どもに基本的な生活習慣を身につけさせ、責任をもって豊かな心や健やかな体を育む温かい家庭であることが望まれます。



○子ども一人ひとりを大切に、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む学校教育をめざします。

○子どもが健全に成長するよう見守るとともに、積極的に教育活動に協力し参画することが望まれます。

5. 教育環境づくりの推進

【取組の方向：教育委員会事務局の学校、家庭等への支援力の強化】

学校が主体性を持ち、充実した教育を行うことができるよう学校の教育活動への支援や家庭への啓発を進めます。また、教育効果が十分発揮できるよう施設整備等を行います。

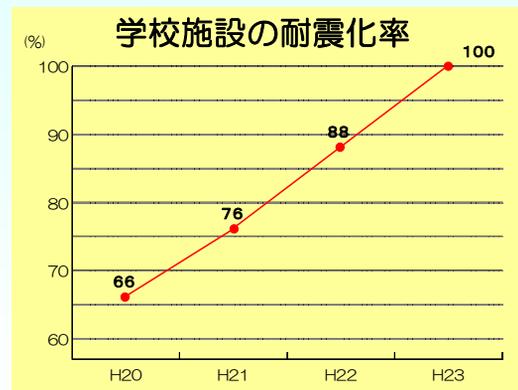
ア 安心して学ぶことができる教育環境の整備

《平成22年度の主な取組》

【予算】 8,232,270千円

◆学校施設の耐震化【継続】

校舎及び講堂等を平成23年度までに耐震化が完了するよう事業を推進



◆学校規模適正化の推進【継続】

小規模校や過大規模校の課題解決のため、学校規模適正化を推進（統合校の基本・実施設計など）

（実績） H20：「福岡市立小・中学校の学校規模適正化に関する実施方針」策定

H21：同方針に基づき、対象校区へ説明・協議

◆学校給食センター再整備【継続】

給食センター老朽化等に伴う再整備について、基本構想を踏まえ、第1センター事業の整備計画を策定（平成26年度稼動予定）

◆夏期の暑熱対策【継続】

平成20年度より、天井固定型扇風機の普通教室への設置を段階的に進めており、平成22年度は約850教室に設置予定

（実績） H20：394教室， H21：659教室に設置

H22以降，残り約2,000教室に設置予定

《これまでの成果》

- 扇風機を教室に設置したところ「涼しい」「暑さが緩和された」「学習効率が上がった」「他の教室にも導入してほしい」等の声が寄せられている。

（平成20年度アンケートより）

イ 教員が子どもと向き合う環境づくり

《平成22年度の主な取組》

【予算】 153,703千円

◆校務情報化推進事業【継続】

平成24年度までに全教員へパソコンを整備していくとともに、校務の効率化や教材の共有化等による教育の質の向上に資する情報システム導入を検討

◆学校問題解決支援事業【継続】

「学校保護者相談室」, 「学校問題解決支援会議」や、弁護士による緊急相談等を実施するとともに、学校の対応能力向上のための研修等を実施

《上記以外のこれまでの主な取組》

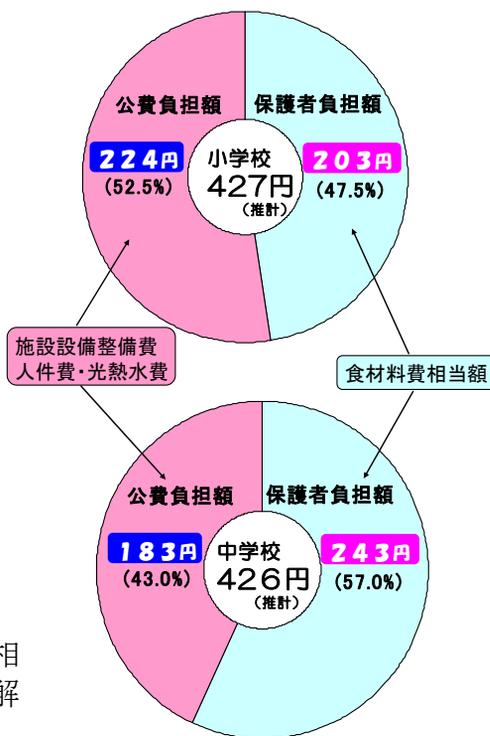
■給食費未納対策強化

給食の円滑な運営と保護者間の公平を保つため、平成19年度から教育委員会事務局において法的措置を含めて対策を強化

■給食費の公会計化

学校給食事務の透明性の向上、保護者負担の公平性の確保、学校事務の負担軽減等を図るため、平成21年度より給食費を教育委員会事務局で一体的に運営する公会計化を実施

学校給食費の負担割合等
(1食あたり)



《これまでの成果》

■教員用パソコンは平成21年度末で6割整備。教員の「子どもと向き合う時間の確保」に大きく貢献している。

■弁護士等も交えての学校支援、保護者向けの相談室の周知・活性化により、学校問題の早期解決等に貢献。

■滞納給食費について平成20年度末までに、1,564世帯(141,616千円)に最終催告を行い、809世帯から84,117千円の納付及び納付誓約を得る。

区 分	平成19年度	平成20年度	合計
① 最終催告世帯数 (最終催告額)	471世帯 (83,414千円)	1,093世帯 (58,202千円)	1,564世帯 (141,616千円)
② 効果額 (完納及び納付誓約) (効果割合)※	322世帯 (57,780千円) (69.3%)	487世帯 (26,337千円) (45.3%)	809世帯 (84,117千円) (59.4%)

※ ①は、当該年度に最終催告をした世帯数と額(当該年度調定額ではない。)
 ※ ②は、最終催告に対する年度毎の20年度末時点での完納及び納付誓約の状況
 ※ 「効果割合」とは、最終催告した額に対する完納及び納付誓約をした額の割合

6. 人権教育の推進

【取組の方向：「福岡市教育委員会人権教育推進計画」
に基づく人権教育の推進】

「福岡市教育委員会人権教育推進計画」に基づき、学校教育においては学校の教育活動全体を通じて人権教育の積極的な推進を図るとともに、社会教育においては基本的人権の尊重を基調とする総合的な視点に立った人権教育を推進します。

《平成22年度の主な取組》

【予算】 103,567千円

◆学校における人権教育の研修【継続】

教職員の人権問題に対する正しい理解・認識と人権意識の高揚を図るため、学校、研究団体の研修を推進

◆人権啓発地域推進組織育成【継続】

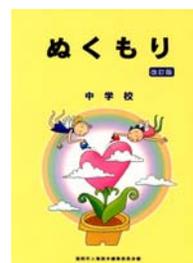
全市交流会の開催などを通して、人権啓発地域推進組織を育成・援助

◆地域の教育力活性化事業【継続】

家庭教育や人権課題当事者の社会参加促進に関する学習活動に対する助成やサポート事業を実施するなど地域の学習グループへの活動支援

《上記以外のこれまでの主な取組》

- 人権教育読本「ぬくもり」の活用
- 社会教育における様々な取組(PTA人権教育研修など)
- 社会教育専門職員等の研修講座 など



(福岡市人権読本研修委員会編集)

《これまでの成果》

- 児童生徒の人権問題に対する認識と理解が深まり、確かな人権感覚などを身につけた児童生徒の育成や、教職員の資質向上が図られている。
- 社会教育における様々な取組(P T A人権教育研修など)により、市民の人権問題に対する理解と認識は一定の深まりを見せている。
- 市民主体の人権啓発地域推進組織の活動が全市139組織で取り組まれている。

7. 図書館・美術館・博物館事業の充実

【取組の方向：市民生活を豊かにする生涯学習の推進と
文化芸術の活性化】

図書館では、市民の多様化、高度化する学習活動に必要な資料・情報を収集し提供するとともに、利用者の利便性向上を図ります。

また、美術館、アジア美術館、博物館では、市民が優れた芸術文化に身近に触れる機会を提供するとともに、ミュージアムの魅力向上に取り組みます。

《平成22年度の主な取組》

【予算】 380,543千円

◆図書館分館整備【継続】

西部地域交流センターの建設にあわせて、
H22年7月に図書館分館開館



◆ミュージアムの魅力向上【新規】

ミュージアムウィークを芸術・文化等の祭典として充実
また、文化の拠点施設・集客交流施設として魅力あるミュージアムにするため、施設のあり方を検討するとともに、美術館では、キッズコーナーの設置やテラスの開放を実施

(実績) 5月18日の「国際博物館の日」を記念して平成21年度から美術館、アジア美術館、博物館の3館連携事業としてミュージアムウィークを開催

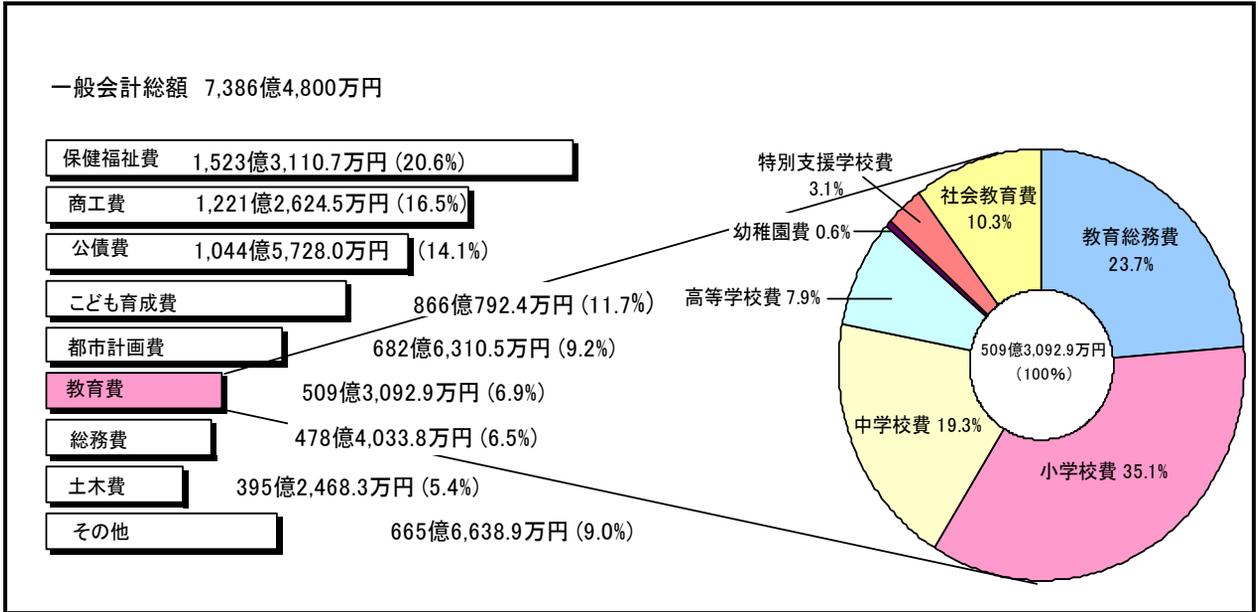


(美術館で平成21年8月8日～9月27日に設置されたキッズコーナー)

教育委員会予算

平成22年度の教育費の金額と過去5年間の推移

①平成22年度 福岡市一般会計 歳出予算と教育費の内訳



平成22年度の一般会計予算は、7,386億4,800万円で、前年度と比較すると、4,64億1,100万円、6.7%の増となっています。そのうち、教育費は、509億3,092.9万円で、前年度と比較すると6億8,438.2万円、1.4%の増となっており、一般会計に占める割合は、6.9パーセントとなっています。

②教育費の過去5年間の推移

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
教育費	421億2,027.9万円	426億407.4万円	454億7,405.8万円	502億4,654.7万円	509億3,092.9万円
(一般会計に占める教育費の割合)	(6.2%)	(6.3%)	(6.9%)	(7.2%)	(6.9%)
一般会計	6,783億500万円	6,740億4,100万円	6,637億8,700万円	6,922億3,700万円	7,386億4,800万円

教育委員会組織図

教育委員会

委員長 飯野 毅紀

委員 貝田 由紀
(委員長職務代理者)

委員 森 重隆

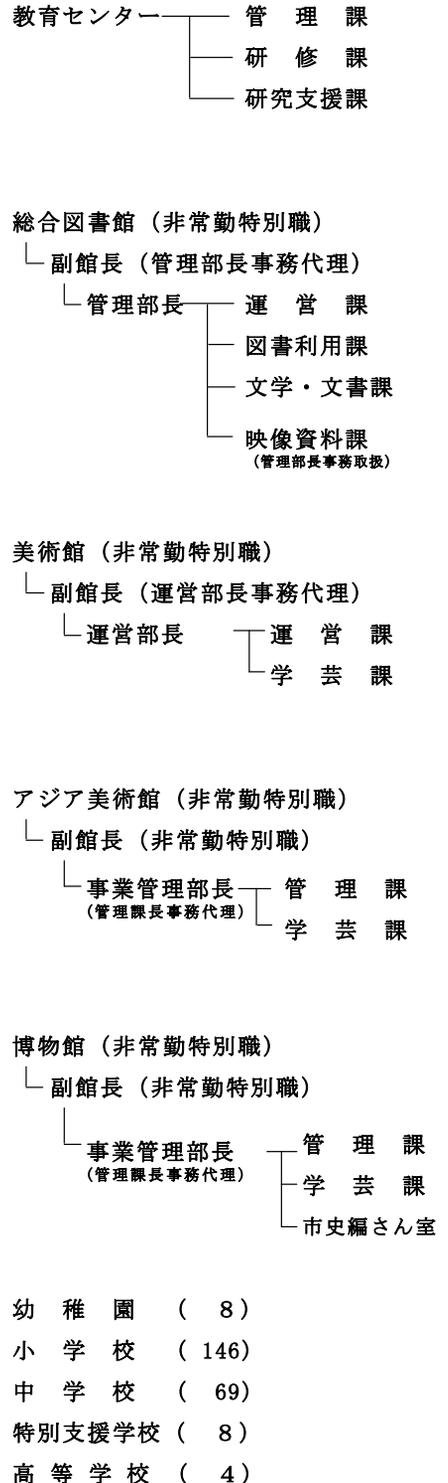
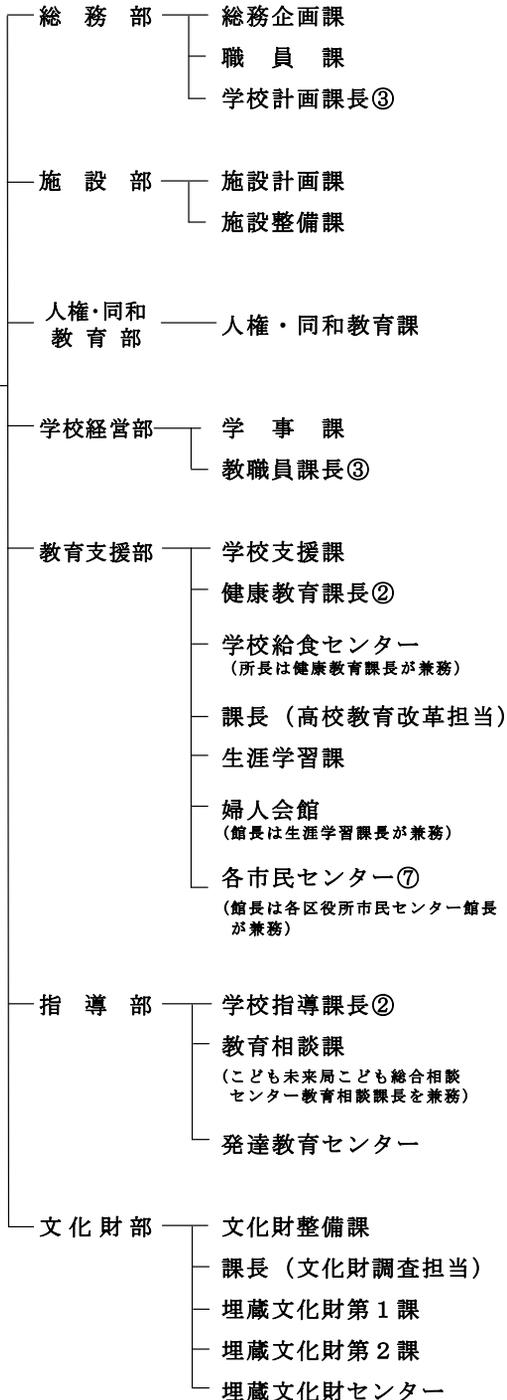
大田 夏美

八尾坂 修

教育長 山田 裕嗣

教育次長

理事



平成22年度
福岡市の教育施策



福岡市の教育施策
平成22年4月

編集・発行 福岡市教育委員会総務部総務企画課
福岡市中央区天神1丁目8番1号

電話 092-711-4605

ホームページ <http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyouiku/>